



橋高 行格
水曜会
(50分)



障がい福祉分野における
人材の確保および育成は

問 日本社会全体が人手不足といわれる中、社会基盤を支えるエッセンシャルワーカーである福祉人材の確保と育成、定着を図るためには一定の支援策が必要と考えるが。

答 昨年度、障がい福祉計画の策定に当たり実施した事業者ヒアリングにおいて、訪問系サービスのヘルパーや相談支援専門員などの専門人材の確保を求める声が多く寄せられた。これを受け、同計画に、その重要性を明記するとともに、就職相談会や中高生の職業観を醸成するボランティア体験会の開催など、人材確保に努めてきた。また、国の処遇改善加算を活用し、待遇改善にも取り組んできた。

今後、新たに大学などの養成校との連携の強化や資格取得の支援に努めるなど、人材確保・育成を、より一層強化していく。



平川 富章
水曜会
(50分)



地域の魅力の向上は

問 北部地域におけるにぎわい創出は。

答 福山駅周辺に一定のにぎわいが戻ってきた今、まちづくりの軸足を各地域の拠点づくりに移し、地域の魅力向上とにぎわいづくりを本格化する。市内2カ所目となるかわまち広場の整備をめざすほか、山野町の旧学校施設などの活用や、加茂福山線など地域間をつなぐ道路の改良を進めることで、にぎわいづくりの基盤も整備する。

コミュニティ・スクールの導入は

問 市内全中学校への導入は。

答 コミュニティ・スクールは子どもを中心に据え、学校と保護者、地域住民が目標やビジョンを共有し一体となって子どもたちを育てていく取り組みである。第三次教育振興基本計画に基づき令和8年度までに全ての学校へ導入することとしている。



小林 聡勇
公明党
(55分)



手城川流域の蔵王雨水幹線は

問 掘削中に地盤状況が変わったため工法を見直して工事が延期されたが、進捗状況と完成予定は。

答 硬い岩盤に対応できるよう、8月から掘削を再開している。9月中には岩盤層を通過し、年内には掘削が完了する予定である。来年の出水期までに管渠内の仕上げや取水口の整備を行い、暫定的に雨水貯留施設として供用を開始する。貯留量は1万5千立方メートルを見込んでおり、現在、東深津町で暫定利用している雨水貯留施設の約8千立方メートルを加えると、2施設の合計貯留量は約2万3千立方メートルとなり、これまでの約3倍となる。これらの施設を効果的に活用し、浸水被害の軽減に努める。

雨水幹線は工事で使用している公園の復旧などを行い、来年11月に完成する予定である。



工事中の蔵王雨水幹線